

## 拝啓 全ての支援者の皆様へ

平素のご無沙汰をお詫び申し上げます。

私は、6月の改選を待って議員を引退することにいたしました。

1979年(昭和54年)4月の統一地方選挙に、米子市内の高校の学びを経ることなく、法勝寺中学校(旧西伯町)の最終学歴をもって35歳で初当選して以来、連続11期43年2カ月の永きに及び議会の末席を汚させていただきました。

この間、皆様から幾多の教えとお叱り、そして暖かい励ましを賜りました。今でも熱く心に抱かせていただいています。心から感謝を申し上げます。

顧みれば、5人の市長にお仕えし熱い議論を交わしたことが思い残されます。最初の河合弘道市長は、1期4年間でありましたが宗教家であり文学者でおられ人間としての薫陶を受けました。議場で市政案内の「手引き」の冊子を提案した時、市長が「これは、やる。」と約束下さったことが強く印象に残っています。

2代は、経済界出身の松本よう市長です。市長との出会いで遠慮のない話ができただ方は、他に無いと言っても良いほど実直に受け止めて頂きました。松本市長は、行政事務の効率化にむけてオンライン化(パソコン機器)を図られ、(株)米子富士通を誘致されました。

政治的には、中海淡水化事業の是非を巡る「住民投票条例」の成立と、他にも山陰12市初の「市消費者条例」制定を共有できたことに熱い思いがあります。

3代の森田隆朝市長は、松本ようさんを破って当選を果たされました。当選直後の市議会は、傍聴席が連日満員で市民が傍聴席からあふれ出るという熱気に包まれました。熾烈な選挙の結末は、守旧派の市政に舵が切られました。

4代の野坂康夫市長は、官僚出身で「東大出」、「外務省出」が最後まで期待の足を引っ張ったと思います。政治課題は、森田市長の時から「地方の時代」という政治改革の流れを受けて「平成の大合併」と「米子駅高架と南北一体化」で熱き議論を交わしました。野坂市長の時に、借地料の減額問題と湊山球場敷地の跡地利用(鳥大医のキャンパス用地)の在り方を市民の皆さんと共に声を張り上げたことは、市史の一頁を飾ったと思います。5代の伊木隆司市長とは、「庁舎再編ビジョン」の議論半ばで未完熟のままとなりました。

他方、弓ヶ浜公園の設立、三柳北地区一帯の下水道整備、三柳県営・加茂市営住宅の改築、加茂の小・中学校大規模修繕工事、国の三柳海岸離岸堤工事、市道安倍三柳線、県道東福原樋口線バイパス工事(通称・自衛隊道路)等、生活インフラにも尽力を挙げてきました。

一方、初当選以来、「市民と議会」の自作の市議会情報を、支援者の皆様に「継続は力なり」との想いでお届けできたことを誇りにしています。

これからは、貧者の一灯を掲げ、読書に、健康に、日々是新たなりと精進し、市政の語り部として、生きてまいります。

末筆乍ら、皆様のご健祥とご多幸をご祈念申し上げまして、引退の挨拶といたします。

永い間、本当にありがとうございました。

敬具

2022年4月吉日

米子市議会議員 遠藤 とおる